HITACHI

JP1 Cloud Service ジョブ管理 バージョンアップ 利用ガイド

JCSM08-0260-01

前書き

■ 対象サービス

＜ V02-01 以降＞

●ジョブ管理 - スタンダード

SD-527318103 JP1 Cloud Service/Job Management - Standard 02-01 以降

●ジョブ管理 - エンタープライズ

SD-527318163 JP1 Cloud Service/Job Management - Enterprise 02-01 以降

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上，必要な手続きをお取りください。

なお，不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

記載の会社名，製品名などは，それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ 発行

2026 年 10 月　JCSM08-0260-01

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2023, 2026, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容(JCSM08-0260-01)　JP1 Cloud Service　02-60

追加・変更内容	変更個所
バージョンアップの注意事項の記載を追加した。	1.1
OCI 環境に関する記載を追加した。	1.2
ジョブ管理とシステム管理の両方をバージョンアップする場合の記載を追加した。	1.2
新環境へバージョンアップ移行する際の移行可否について項目を追加した。	1.3

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1 Cloud Service ジョブ管理におけるバージョンアップの内容について説明したものです。

■ 対象読者

このマニュアルは次の方にお読みいただくことを前提に説明しています。

- JP1 Cloud Service / ジョブ管理において，バージョンアップを検討されている方
- JP1 Cloud Service / ジョブ管理において，バージョンアップの概要や基本的な使い方を理解しようとされている方

■ マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章　ジョブ管理 バージョンアップの概要
ジョブ管理 バージョンアップの概要について説明しています。

第 2 章　ジョブ管理 バージョンアップ利用方法
ジョブ管理 バージョンアップ利用するために必要な手順について説明しています。

付録 A　各バージョンの変更内容
各バージョンの変更内容について説明しています。

付録 B　用語解説
このマニュアルにおける用語について説明しています。

■ マニュアルの表記

このマニュアルでは，製品の正式名称と異なる表記があります。次に，このマニュアルでの表記と製品の正式名称が異なる点を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
JP1/AJS3 - Agent [Base]，JP1/AJS3 - Manager [Base]または，JP1/IM3 - Manager [Base]	JP1/Base
JP1/AJS3 - Manager [Manager]	JP1/AJS3 - Manager
JP1/AJS3 - View [View]	JP1/AJS3 - View

目次

前書き　2
変更内容　3
はじめに　4

1　ジョブ管理 バージョンアップの概要　6
1.1　ジョブ管理 バージョンアップとは　7
1.2　システム構成　8
1.2.1　ジョブ管理のみバージョンアップする場合　8
1.2.2　ジョブ管理とシステム管理の両方をバージョンアップする場合　8
1.3　新環境へのデータ移行　10

2　ジョブ管理 バージョンアップ利用方法　12
2.1　バージョンアップ作業の流れ　13
2.1.1　バージョンアップ依頼連絡【お客様側作業】　13
2.1.2　新環境の準備【JP1 Cloud Service 側作業】　13
2.1.3　お客様側接続確認【お客様側作業】　14
2.1.4　新環境の情報提供【JP1 Cloud Service 側作業】　14
2.1.5　新環境の利用開始【お客様側作業】　14
2.1.6　お客様側の切り替え作業【お客様側作業】　15
2.1.7　旧環境ジョブ管理のサービス停止【JP1 Cloud Service 側作業】　16

付録　17
付録 A　各バージョンの変更内容　18
付録 A.1　02-60 の変更内容　18
付録 A.2　02-50 の変更内容　18
付録 A.3　02-40 の変更内容　18
付録 A.4　02-30 の変更内容　18
付録 A.5　02-20 の変更内容　18
付録 A.6　02-10 の変更内容　18
付録 B　用語解説　19

索引　21

1 ジョブ管理 バージョンアップの概要

ジョブ管理 バージョンアップの概要について説明します。

1.1 ジョブ管理 バージョンアップとは

JP1 Cloud Service では，ジョブ管理の利用開始後，ジョブ管理マネージャー環境を構成する JP1 製品のバージョンアップ版（JP1/AJS3 - Manager 12-50 から JP1/AJS3 - Manager 13-00 へのバージョンアップなど），またはリビジョンアップ版（JP1/AJS3 - Manager 13-00 から JP1/AJS3 - Manager 13-50 へのリビジョンアップなど）が提供され，お客様からの要望があり JP1 Cloud Service 側が承諾した場合，ジョブ管理を新バージョンにバージョンアップすることができます※1。

新環境のジョブ管理マネージャー及びサービスポータルの環境の構築において，旧環境とは別の IP アドレスの範囲を使用します。（新環境のジョブ管理マネージャーの接続ホスト名や URL も旧環境とは別になります。）なお，旧環境が複数のネットワーク区域が存在する場合，一部のネットワーク区域のみ新バージョンへのバージョンアップすることはできません。旧環境で使用している複数のネットワーク区域全てがバージョンアップの対象となります。

お客様からバージョンアップ依頼受領後，JP1CloudService 側で新バージョンのジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルを構築し，旧バージョンのジョブ管理マネージャーおよびサービスポータル内のデータを移行した新環境を提供します。お客様への新環境の情報提供後，お客様側で旧環境から新環境へ移行できます。新環境と旧環境でのジョブ管理マネージャーの並行稼働期間は 3 ヵ月です。

このマニュアルでは，ジョブ管理のバージョンアップにおける旧環境から新環境へ移行する方法を説明します。

注※1

ジョブ管理のバージョンアップは，JP1 Cloud Service 02-01 以降を対象とします。JP1 Cloud Service 02-01 より前のバージョンをご利用の場合は，新規環境をご契約いただき，お客様自身で移行していただく必要があります。

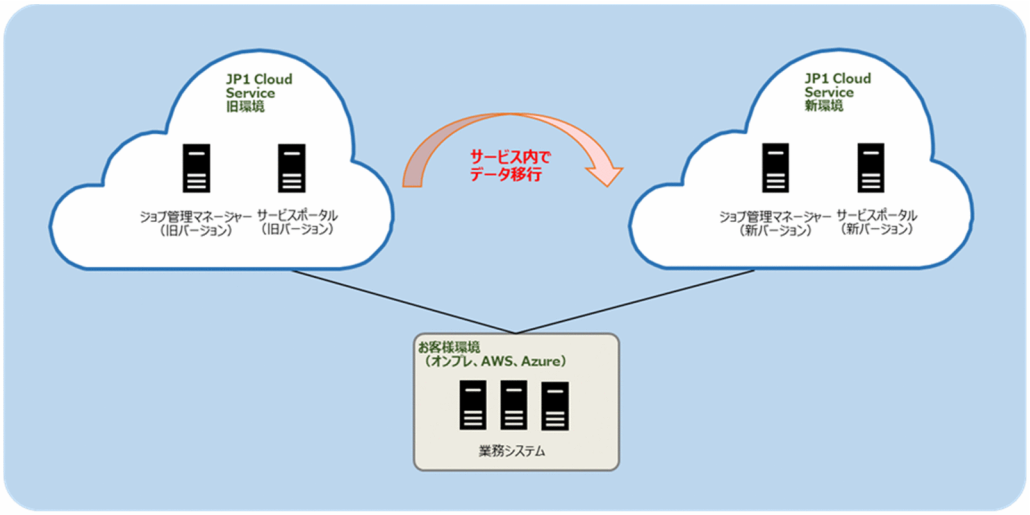
重要

同一のサービスポータルでジョブ管理とシステム管理を操作している場合，両者をバージョンアップすると，ジョブ管理とシステム管理を扱うサービスポータルはそれぞれ分かれます。

1.2　システム構成

1.2.1　ジョブ管理のみバージョンアップする場合

ジョブ管理バージョンアップのシステム構成例を以下に示します。



新環境では，旧環境とは別に新バージョンのジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルを構築します。ジョブ管理バージョンアップにおける新環境を利用するためには，以下の接続が必要です。接続方法の詳細については，「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」を参照してください。

- お客様の AWS 環境，Azure 環境，Google Cloud 環境と，JP1 Cloud Service とを接続する。
  （AWS 環境の場合，お客様の AWS アカウントで，JP1 Cloud Service が公開する AWS Transit Gateway に接続するか，お客様所有 AWS Transit Gateway に JP1 Cloud Service が接続する。Azure 環境の場合，お客様の Azure アカウントで，JP1 Cloud Service に VPN で接続する。Google Cloud 環境の場合，お客様の Google Cloud アカウントで，JP1 Cloud Service に VPN で接続する。OCI 環境の場合，お客様の Oracle Cloud アカウントで，JP1 Cloud Service に VPN で接続する。）

また，お客様のオンプレミスや各種クラウドから JP1 Cloud Service を利用する場合は，以下の接続が必要です。

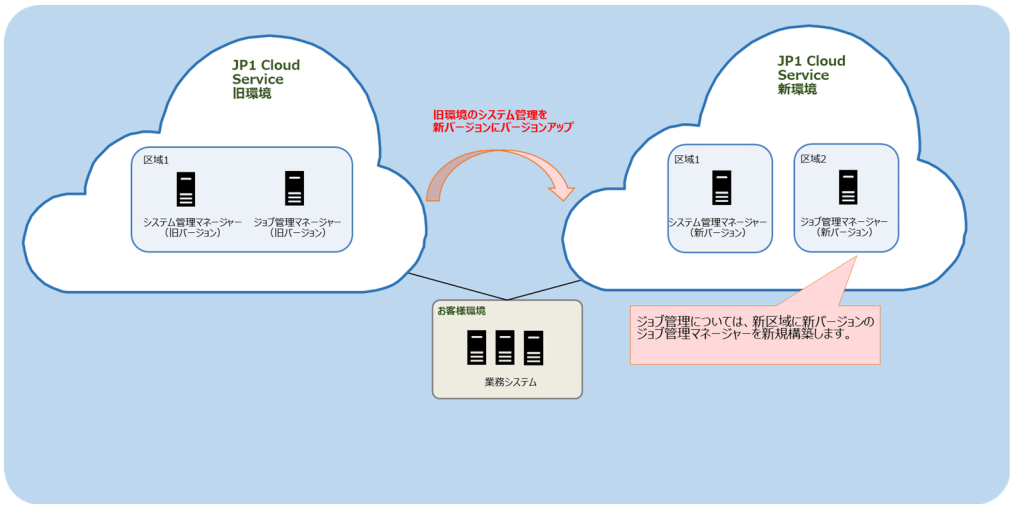
- お客様の AWS 環境，Azure 環境，Google Cloud 環境と各拠点とを VPN や専用線等で接続する。

1.2.2　ジョブ管理とシステム管理の両方をバージョンアップする場合

ジョブ管理のバージョンアップについては，新区域に新バージョンのジョブ管理マネージャーを新規構築します。新環境を利用する場合は，新環境の区域への接続先変更が必要となります。

一方，システム管理については，旧環境のシステム管理マネージャーに対して JP1 ミドルウェアのインプレースバージョンアップ（VUP）を実施します。これにより，新環境への移行に際して，お客様環境での

ネットワーク接続先の変更作業は不要です。システム管理のバージョンアップ手順や利用方法については，マニュアル「JP1 Cloud Service システム管理 バージョンアップ 利用ガイド」をご参照ください。



1.3　新環境へのデータ移行

ジョブ管理のバージョンアップにおける旧環境から新環境へのデータ移行について，JP1 Cloud Service 側で移行可能なデータや一部お客様にて対応が必要なデータ，移行ができないデータがあります。

ジョブ管理のバージョンアップで新環境へ移行する各データ項目の移行可否を以下に示します。

#	データ項目	旧環境のバージョン	移行可否	説明
1	JP1 ユーザー	共通	○	ジョブ管理マネージャーに登録されている JP1 ユーザーの情報を JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。
2	実行エージェント情報	共通	○	実行エージェントまたは実行エージェントグループの定義情報を JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。
3	ジョブ定義	共通	△	スケジューラーサービスにあるユニットの定義情報を JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。ただし，ジョブユニットの所有者が「空白」の場合，ジョブ定義が一致しないことがあります。また，ルートジョブグループ（JP1CLOUD01～10）をデフォルトの定義情報から変更している場合，新環境へ移行できません。 契約いただくメニューの違いにより新環境で同名のスケジューラーサービスが存在しない場合は対象外となります。
4	JP1/AJS3 for Cloud Service Applications 定義情報	V02-00 以降	×	連携定義，部品定義情報は移行できません。お客様側にてエクスポート，インポートをしてください。 認証定義についてはエクスポートすることができません。
5	スケジュール	共通	○	ジョブネットのスケジュール情報を JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。
6	カレンダー	共通	○	ルートジョブグループのカレンダー情報を JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。 契約いただくメニューの違いにより，新環境で同名のスケジューラーサービスが存在しない場合は対象外となります。
7	ジョブの実行結果	共通	×	スケジューラーサービスにあるジョブに実行結果の情報は新環境に移行できません。
8	実行登録状態	共通	×	実行登録をしているユニット情報一覧の情報は新環境に移行できません。
9	一時変更情報	共通	×	保留状態や計画一時変更状態，実行結果詳細情報は新環境に移行できません。
10	サーバ内ログ	共通	×	サービスポータルからダウンロード可能なログ，ジョブ稼働実績，認証ログの情報は新環境に移行できません。ただし，旧環境のジョブ管理が稼働している場合，参照することができます。
11	メトリクス情報	V01-10 以降	×	ジョブ管理マネージャーの CPU 使用率やメモリ使用率等の利用状況の情報は新環境に移行できません。ただし，旧環境のジョブ管理およびサービスポータルが稼働している場合，参照することができます。

#	データ項目	旧環境のバージョン	移行可否	説明
12	JP1/AJS3 - WebConsole 監視設定	共通	×	JP1/AJS3 - WebConsole が使用するファイル情報は JP1 Cloud Service 側で新環境に移行できません。お客様側で新規登録を行う必要があります。
13	ホスト名情報	共通	○	ジョブ管理マネージャーに登録されたサーバのホスト情報は JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。
14	/usrfile（ユーザーデータ領域）	V01-12 以降	○	/usrfile 配下のお客様データは JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。
15	ユニット属性プロファイル	V02-60 以降	○	サービスポータルから登録申請したユニット属性プロファイルを JP1 Cloud Service 側で新環境に移行します。 契約いただくメニューの違いにより新環境で同名のスケジューラーサービスが存在しない場合は対象外となります。
16	その他設定項目，定義ファイル	共通	×	本表に記載のないその他設定項目，定義ファイルについては移行できません。

（凡例）

○：JP1 Cloud Service 側で実施

△：JP1 Cloud Service 側で実施（制限あり，一部お客様側で対応）

×：移行できない

2 ジョブ管理 バージョンアップ利用方法

ジョブ管理 バージョンアップを利用するために必要な手順について説明します。

2.1　バージョンアップ作業の流れ

ジョブ管理 バージョンアップの依頼から利用を開始するまでの流れについて以下に示します。

#	作業概要	作業詳細	作業分担
1	バージョンアップ依頼連絡	お客様からのバージョンアップ依頼	お客様
2	新環境の準備	新バージョンのジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルの構築，セットアップ	JP1 Cloud Service
3		JP1 Cloud Service 側での旧環境から新環境へのデータ移行	JP1 Cloud Service
4	お客様接続確認	新環境のジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルとの疎通確認を実施	お客様
5	新環境の情報提供	新環境の情報をお客様に提供	JP1 Cloud Service
6	新環境の利用開始	新環境ジョブ管理の利用開始	お客様
7	お客様側での新環境への切り替え作業	お客様側での旧環境から新環境への移行作業	お客様
8	旧環境ジョブ管理のサービス停止	旧環境のジョブ管理をサービス提供停止	JP1 Cloud Service

2.1.1　バージョンアップ依頼連絡【お客様側作業】

ジョブ管理のバージョンアップが必要な場合，バージョンアップ依頼をサービス窓口までご連絡ください。お客様と JP1 Cloud Service 間で，新環境で使用する IP アドレスの範囲の調整を行います。

> **重要**
>
> JP1 Cloud Service V02-50 よりも前のバージョンをご利用中であり，JP1 Cloud Service V02-50 以降へのバージョンアップをご希望される場合，複数区域をご契約のお客様は，区域ごとに使用する IP アドレス範囲の調整が必要となります。

2.1.2　新環境の準備【JP1 Cloud Service 側作業】

お客様からの依頼を受領後，JP1 Cloud Service 側で新バージョンのジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルを構築します。また，JP1 Cloud Service 側で移行できるデータを旧環境から新環境へデータ移行します。データ移行の詳細について，「1.3 新環境へのデータ移行」を参照ください。

2.1.3　お客様側接続確認【お客様側作業】

新環境のジョブ管理マネージャーおよびサービスポータルとお客様の環境が接続できることを確認します。

(1)　ジョブ実行エージェントからジョブ管理マネージャーへ接続確認

ジョブ実行エージェントからジョブ管理マネージャーに対して疎通確認をします。ジョブ実行エージェントに対して以下の接続確認を実施してください。

接続確認

- ジョブ実行エージェントで「ping ホスト名」を実行して名前解決できることを確認してください。

(2)　ジョブ管理ビューアーからジョブ管理マネージャーへ接続確認

ジョブ管理ビューアーからジョブ管理マネージャーに対して疎通確認をします。ジョブ管理ビューアーに対して以下の接続確認を実施してください。

接続確認

- ジョブ管理ビューアーで「ping ホスト名」を実行して名前解決できることを確認してください。

(3)　サービスポータルへの接続確認

新環境のサービスポータルとお客様の環境が接続できていることを確認してください。

サービスポータルへの接続手順については，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」の「1.2.7　接続確認の手順」を参照してください。※

注※

新環境サービスポータルの URL，ユーザー ID および初期パスワードは，JP1 Cloud Service 側が別途提供する「ご利用環境の情報（ジョブ管理・システム管理）」を確認してください。

2.1.4　新環境の情報提供【JP1 Cloud Service 側作業】

JP1 Cloud Service 側での新環境の準備完了後，お客様へ新環境の情報を提供します。

新環境の情報については，JP1 Cloud Service 側が別途提供する「ご利用環境の情報（ジョブ管理・システム管理）」を確認してください。

2.1.5　新環境の利用開始【お客様側作業】

お客様側での接続確認後，新環境のジョブ管理を利用開始できます。

新環境のジョブ管理マネージャーは，旧環境で実行登録していたジョブネットの状態は保持されないため，ジョブネットの実行登録状態は移行されません。お客様自身で移行先のジョブ定義とエージェントの状態を確認し，業務再開作業を実施してください。※

また，ルートジョブグループ（JP1CLOUD01～10）をデフォルトの定義情報から変更している場合，旧環境のルートジョブグループ（JP1CLOUD01～10）に定義している以下の定義情報を参照しながらお客様自身でジョブ管理ビューアーから新環境に定義してください。

- コメント
- 所有者
- JP1 資源グループ
- 基準日
- 月区分

なお，ジョブ管理ビューアーから新環境のジョブ管理マネージャーへログインする際，接続ホスト名に新環境のジョブ管理マネージャーの情報を指定してください。

注※

旧環境におけるジョブユニットの所有者が空白の場合，新環境では，ajsdefine した JP1 ユーザーが自動で付与されるため，お客様による修正が必要です。新環境の利用開始後に旧環境のジョブ定義に加えた変更はお客様自身で修正してください。

2.1.6　お客様側の切り替え作業【お客様側作業】

バージョンアップ後，移行先の新環境ジョブ管理マネージャーでジョブを実行するため，お客様側の切り替え作業を説明します。

(1)　ジョブ実行エージェント側作業

バージョンアップ後，接続先ジョブ管理マネージャーの情報が変更されます。

ジョブ管理マネージャーの名前解決のために，JP1 Cloud Service が公開するパブリックの DNS を参照している場合，お客様側で，ジョブ実行エージェントに新環境のジョブ管理マネージャーの DNS サフィックスを設定してください。ジョブ実行エージェントの DNS サフィックスの設定方法は，マニュアル「JP1 Cloud Service ジョブ管理・システム管理 導入ガイド」の「1.2.8 その他の設定」を参照してください。

なお，JP1 Cloud Service が公開するパブリックの DNS 以外の名前解決方法によりジョブ実行エージェント構築している場合，対応する方法での IP アドレス変更設定をしてください。

また，ジョブ実行エージェント側で接続元制限機能を利用している場合，変更後の IP アドレスをエージェント用接続許可設定ファイルに指定する必要があります。接続を許可する IP アドレスを変更する手順につ

いては，JP1 マニュアル「JP1 Version 13 JP1/Automatic Job Management System 3 運用ガイド」の「7.11.2 JP1/AJS3 への接続を許可する接続元を変更する」を参照してください。

(2)　ジョブ管理ビューアー側作業

バージョンアップ後，接続先ジョブ管理マネージャーの情報が変更されます。

ジョブ管理ビューアーにログインする際は，新環境のジョブ管理マネージャーの接続ホスト名を使用してください。

2.1.7　旧環境ジョブ管理のサービス停止【JP1 Cloud Service 側作業】

お客様側の新環境へのデータ移行作業が完了後，サービス窓口までご連絡ください。

旧環境ジョブ管理のサービスを停止します。※

注※

新環境と旧環境でのジョブ管理マネージャーの並行稼働期間は 3 か月とします。

付録

付録 A　各バージョンの変更内容

各バージョンでの変更点を次に示します。

付録 A.1　02-60 の変更内容

- バージョンアップの注意事項の記載を追加した。
- OCI 環境に関する記載を追加した。
- ジョブ管理とシステム管理の両方をバージョンアップする場合の記載を追加した。
- 新環境へバージョンアップ移行する際の移行可否について項目を追加した。

付録 A.2　02-50 の変更内容

- バージョンアップによる IP アドレスの調整に関する記載を追加した。

付録 A.3　02-40 の変更内容

- Google Cloud 環境に関する記載を追加した。
- ジョブ実行エージェントの DNS サフィックスの設定が必要なことを追記した。
- ジョブ管理ビューアーの接続説明を訂正した。

付録 A.4　02-30 の変更内容

- ジョブ管理のバージョンアップに関わる IP アドレス範囲の仕様について記載した。
- バージョンアップの作業の流れについて訂正した。

付録 A.5　02-20 の変更内容

- AWS 環境のシステム構成について説明を訂正した。

付録 A.6　02-10 の変更内容

- ルートジョブグループにおける定義情報の移行について制約事項を追加した。
- ジョブユニットの所有者が空白の場合，新環境での利用開始時に注意すべき点を追記した。

付録 B　用語解説

（英字）

JP1/AJS3
: 業務を自動的に運用するためのプログラムです。処理を順序付けて定期的に実行したり，特定の事象が発生したときに処理を開始したりできます。

JP1 ユーザー
: JP1 を使用するためのユーザーです。

（サ行）

サービスポータル
: JP1 Cloud Service が提供する，お客様がセルフサービスで操作可能な GUI プログラムです。

ジョブ
: JP1/AJS3 における，業務処理の最小単位です。

ジョブ管理ビューアー
: ジョブ管理マネージャーを操作するための機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - View

ジョブ管理マネージャー
: 複数の業務の内容と実行順序を定義し，保存した定義を自動で実行することによって，業務の運用を管理する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - Manager
  - JP1/Base

ジョブグループ
: ジョブネットをまとめたり分類したりして体系的に管理するためのグループです。

ジョブ実行エージェント
: ジョブ管理マネージャーから指示されたジョブを実行する機能です。主に以下の構成物から構成されます。

  - JP1/AJS3 - Agent
  - JP1/Base

ジョブ管理マネージャー側で管理される，ジョブの実行先に関する設定を示す場合もあります。

ジョブネット

実行順序を関連づけたジョブの集まりです。ジョブネットを実行すると，ジョブネット中のジョブが実行順序に従って自動的に実行されます。

（ヤ行）

ユニット

JP1/AJS3 における，自動化する業務を構成する一つ一つの要素（ジョブグループ，ジョブネット，ジョブなど）です。

索引

J

JP1/AJS3〔用語解説〕 19
JP1 ユーザー〔用語解説〕 19

さ

サービスポータル〔用語解説〕 19

し

システム構成 8
ジョブ管理 バージョンアップとは 7
ジョブ管理 バージョンアップの概要 6
ジョブ管理 バージョンアップ利用方法 12
ジョブ管理ビューアー〔用語解説〕 19
ジョブ管理マネージャー〔用語解説〕 19
ジョブグループ〔用語解説〕 19
ジョブ実行エージェント〔用語解説〕 19
ジョブネット〔用語解説〕 20
ジョブ〔用語解説〕 19
新環境へのデータ移行 10

は

バージョンアップ作業の流れ 13

ゆ

ユニット〔用語解説〕 20

株式会社 日立製作所

〒 100–8280　東京都千代田区丸の内一丁目 6 番 6 号